

II 実施方法

実施期間：前期は、2009(平成 21)年 7 月 9 日～7 月 22 日、後期は、同年 12 月 9 日～2010(平成 22)年 1 月 22 日に実施した。

本学の学部・研究科の構成

大学	人間文化学部	英語英文学科
		人間文化学科
		生活福祉文化学科(2007 年 4 月 生活福祉文化学部生活福祉文化学科に改組)
		生涯発達心理学科(2005 年 4 月 心理学部心理学科に改組)
	生活福祉文化学部	生活福祉文化学科
	心理学部	心理学科 発達心理専攻
		学校心理専攻
臨床心理専攻		
大学院	人間文化研究科	応用英語専攻
		人間文化専攻
		生活福祉文化専攻
	心理学研究科	発達・学校心理学専攻 (博士前期課程)
		臨床心理学専攻 (博士前期課程)
		心理学専攻 (博士後期課程)

調査対象科目：学部科目については、ゼミナール（特論および卒業研究）及び集中講義（不定期に開講される科目）は調査の対象外とした。学部／学科ごとの実施科目数の内訳は以下のとおりである。また、大学院科目については、大学院の教育内容全体についての調査を行うこととした。

実施科目数の内訳（学部／学科）

前期

	専任	非常勤	計
共通教育	46	68	114
英語英文学科	62	35	97
人間文化学科	39	10	49
生活福祉文化学部	57	27	84
心理学部	41	7	48
その他の資格科目	10	10	20
計	255	157	412

後期

	専任	非常勤	計
共通教育	38	60	98
英語英文学科	64	34	98
人間文化学科	34	4	38
生活福祉文化学部	56	13	69
心理学部	44	11	55
その他の資格科目	15	8	23
計	251	130	381

当初の実施予定数	256	157	413
実施できなかった科目数	1	0	1

当初の実施予定数	257	134	391
実施できなかった科目数	6	4	10

調査対象者：全学部の学生および全研究科の大学院生。学部／学科については、履修者数と回収数、回収率を、研究科／専攻については、在籍者数と返却数、返却率を以下に示す。

履修者数と回収数、回収率（学部／学科）

前期

	履修者数	回収数	回収率
共通教育	5,674	4,306	75.9%
英語英文学科	3,117	2,456	78.8%
人間文化学科	1,878	1,411	75.1%
生活福祉文化学部	2,726	2,221	81.5%
心理学部	3,606	2,838	78.7%
その他の資格科目	682	598	87.7%
計	17,683	13,830	78.2%

後期

	履修者数	回収数	回収率
共通教育	4,892	3,295	67.4%
英語英文学科	2,725	1,847	67.8%
人間文化学科	1,541	877	56.9%
生活福祉文化学部	2,019	1,486	73.6%
心理学部	3,805	2,806	73.7%
その他の資格科目	740	556	75.1%
計	15,722	10,867	69.1%

在籍者数、回収数、回収率（大学院）

	修士		博士前期		博士後期			全 体		
	1年	2年	1年	2年	1年	2年	3年			
	在籍者数	在籍者数	在籍者数	在籍者数	在籍者数	在籍者数	在籍者数	返却数	在籍者数	返却率
応用英語専攻	5	9						9	14 ^{※1}	64.3%
生活福祉文化専攻	1	14						10	15	66.7%
人間文化専攻	3	4						5	7	71.4%
人間文化研究科	9	27						24	36	66.7%
発達・学校心理学専攻			4	2				5	6 ^{※2}	83.3%
臨床心理学専攻			9	9				16	18	88.9%
心理学専攻					0	0	1	0	1	0.0%
心理学研究科			13	11	0	0	1	21	25	84.0%
全研究科 合計	9	27	13	11	0	0	1	45	61	73.8%

※1 アンケート実施時 2009（平成 21）年 12 月の在籍者数は、12 名であり返却率は 75.0%である。

※2 アンケート実施時 2010（平成 22）年 1 月の在籍者数は、5 名であり返却率は 100.0%である。

調査内容：最初に、回答者の属性（学部学生については、所属学部・学科・専攻や学年、大学院学生については、研究科・専攻や学年）を尋ね、次に当該科目（大学院については大学の教育内容全体）に関する以下の項目について尋ねた。学部、大学院、それぞれの調査項目は以下の通りである。

＜学部の当該科目に関する調査項目＞

1. 評価項目

1) 教員（授業）について

- (1) 授業のテーマは、はっきりしていた。
- (2) 授業の内容を理解できた。
- (3) 授業の内容に興味・関心をもてた。
- (4) この授業からよい刺激を受け、自分の考えが広がってきたようだ。
- (5) この授業では、学習に集中することができた。
- (6) 授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は適切であった。
- (7) 成績評価の仕方が明確に示されていた。

- (8) 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった。
- (9) 教員のプレゼンテーション（板書・パワーポイント・CD プレーヤーなど）は適切であった。
- (10) 教員は学生の質問や相談に適切に対応した。
- (11) 教員の授業への取り組みに、熱意や情熱を感じた。
- (12) 教員は学生の反応や理解を見ながら授業を進めた。
- (13) 私はこの授業に満足した。

2) あなたについて

- (14) 私は履修科目を選ぶ際にシラバスをよく読んだ。
- (15) 授業中は意欲的・積極的に取り組んだ。
- (16) この授業のために、平均何時間程度、予習／復習や準備をしましたか。
[基準：1回につき、4（2時間以上）、3（1～2時間）、2（1時間未満）、1（0時間）]
- (17) この授業で、何回欠席しましたか。
[基準：4（0回）、3（1回）、2（2～3回）、1（4回以上）]
- (18) この授業への出席状況や受講態度から考えて、この授業を公正に評価する資格があなたにあると思いますか。

3) 自由記述

「この科目（授業）についてよかった点や改善すべき点等を記入してください」と教示し、調査用紙に自由回答欄を設けた。

2. 回答形式

評価項目1)、2)については、以下の4件法で回答させた。

- 4: そう思う
- 3: どちらかと言えばそう思う
- 2: どちらかと言えばそう思わない
- 1: そう思わない

<大学院の教育内容全体に関する調査項目>

1. 評価項目

1) 所属する研究科の教育内容や教育環境について

- (1) 学位取得のための道筋が明確に示されている。
- (2) 提示されたカリキュラムは納得のいくものである。
- (3) 授業時間割はバランスよく配置されている。
- (4) 提供される科目の授業内容が明確に示されている。
- (5) 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている。
- (6) 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている。
- (7) オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている。
- (8) 研究科、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている。
- (9) 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている。
- (10) キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている。

2) 自由記述

「あなたが所属する研究科の教育内容全体についてよかった点や改善すべき点などを記入してください」と教示し、調査用紙に自由回答欄を設けた。

2. 回答形式

評価項目1)については、以下の4件法で回答させた。

- 4: そう思う
- 3: どちらかと言えばそう思う
- 2: どちらかと言えばそう思わない
- 1: そう思わない

実施手順:

<学部科目について>

1. 実施用紙の受け取りと返却について

専任教員については、授業評価アンケート調査用紙を企画調整課より受け取り、調査実施後、指定の封筒に入れて企画調整課に返却した。

非常勤講師については、授業評価アンケート調査用紙を教務学事課で受け取り、調査実施後、指定の封筒に入れて教務学事課に返却した。

2. 調査実施方法について

学部については、各科目担当教員が、授業時間内に受講生に対して調査の主旨等を説明した後、調査用紙を配布し、実施後、回収した。受講生が調査用紙に回答している際、担当教員はできるだけ教室外で待機するなどの配慮を行った。

<大学院について>

人間文化研究科では、応用英語専攻については、専攻主任が個別に配布しまとめて回収、人間文化専攻については、専攻主任が個別に配布し企画調整課へ各自提出することとした。また、人間文化研究科生活福祉文化専攻、心理学研究科については、FD・自己点検評価委員が、授業時間内に受講生に対して調査の主旨等を説明した後、調査用紙を配布し、実施後、回収した。その際、受講生が調査用紙に回答している間は、教員はできるだけ教室外で待機するなどの配慮を行った。

結果の集計:

集計は、(株)学習調査エデュフロントに依頼した。

教員への結果通知と集計結果の配布:

2010(平成22)年3月3日に、2009(平成21)年度授業評価アンケート結果を受けての全学教員研修会を実施した。全学および、学部/学科、研究科/専攻ごとの集計結果(年度・前期・後期)については、その際に、全専任教員に配布した。

各科目の個人集計分については、前期は、2009(平成21)年9月~10月上旬に、企画調整課より返却した。後期は、上記の全学研修会の際に個別に返却した。非常勤教員については、教務学事課より返却した。

担当: 三好 智子(心理学部准教授)